

年頭所感



日本合板商業組合
理事長 足立 建一郎

新年あけましておめでとうございます。

組合員の皆さま、賛助会員の皆さま、

本年も宜しくお願い申し上げます。

また、昨年の台風やこれに伴う豪雨災害で被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げますとともに一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

さて、昨年の世界の経済情勢を顧みますと、これまで世界経済の安定した回復基調にも地域による成長のばらつきがはっきりとしてきました。実質 GDP は、米国では底堅く住宅投資は低金利の恩恵も見られました。一方欧州では成長ペースは伸び悩み、中国では減速となり、全般的には勢いを欠きました。国内では、台風やこれに伴う豪雨災害の影響、消費増税後の反動も見られましたが、軽減税率の導入や教育無償化等の消費増税対策による負担の緩和により消費の大幅な落ち込みは回避される見込みです。

本年の世界経済は、米中対立をめぐる貿易問題や英国の EU 離脱に伴う先行き不透明感から大幅な回復期待は望み薄とみられています。一方国内

は、輸出の力強さは期待しにくい状況にあります。が、企業収益の改善による設備投資の増加など内需がけん引する景気回復は続く見込みです。

昨年の住宅需要は、貸家の継続する着工減と消費増税の駆け込み等による持家と分譲戸建の限定的な増加、その後の反動の影響から全体では前年比で微減すると予想されます。本年は減少トレンドにあるものの、政府による駆け込み効果平準化策等により大幅な落ち込みは回避されると予測されます。

また昨年の国内の住宅資材は、国産針葉樹合板の需要用途の拡大が一層進みました。本年も輸入に関連する合板や建材などは、産地からの供給の安定化が望まれますが、国内の針葉樹構造用合板も用途分野ごとの需要に見合った供給が望まれます。

このような環境のなか、日合商は合板をはじめとする建材需給の安定化や合法木材等の利用と普及・拡大を主要な活動とし、取り組んでまいりました。特にクリーンウッド法の普及にともない、本年も、引き続き合法木材等の利用促進、木造建

築物への補助政策の拡大等への陳情等により、政府施策と組合員の事業との関係性が深まるよう取り組みを進めます。さらに「働き方改革」「ホワイト物流」に関連する人手不足や省力化投資等の問題は、深刻さを増しています。これにも日合商は積極的に対応を進め、組合員を中心とする勉強会・研修会等を各支部と共同で実施し、日合商の基盤強化を目指して参りたいと考えております。

日合商の会勢の強化に関しましては、合法木材等の供給事業者の認定取得等のための入会による増加、一方事業撤退等による退会の結果、組合員数は 806 社(9 月末日)となっています。引き続き、組合員・準会員・賛助会員の皆様のご協力を仰ぎ、1,000 社を越える組合を目指して邁進していく所存です。

本年も、会員相互の「協調と連帯」のもと、情報の早期収集と発信を通じ、組合員の皆様の事業の拡大・強化に貢献して参りたいと考えております。

会員の皆様と連帯し成果を手に入れる年とすることを祈念して、年頭のご挨拶とさせていただきます。



代表取締役社長 足立 建一郎
ジューテックホールディングス株式会社

「CHANGE(変化)」を「CHANCE(機会)」に変えていかなければならない
そこに新しい「変革」が見えてくるはずだ。

「突破力をフル回転させながら、
イノベーションを起こすためには、
イノベーションは起こせない。
ただ歴史にあぐらをかいていたのでは、
いよいよ 100 周年へのカウントダウンが始まる。

変革をこれからも



主要木材の入荷量			丸太							輸入製材品							合板			構造用集成材			
	四半期	区 分	国産材			輸入丸太																	
			製材用	合板用	計	米材	南洋材	北洋材	NZ/チリ	計	米材	欧州材	南洋材	北洋材	NZ/チリ	計	国内製造	輸入	計	国内製造	輸入	計	
令和元年	7-9月	実績	実数(千㎡)	3,146	1,190	4,336	527	23	22	86	658	478	664	104	172	83	1,501	841	589	1,430	490	218	708
			前年比(%)	107.4	111.5	108.5	85.8	78.6	73.3	75.4	83.7	91.3	106.7	103.7	109.6	80.9	99.8	104.7	89.2	97.7	108.9	110.6	109.4
	10-12月	見込み	実数(千㎡)	3,300	1,280	4,580	550	34	20	85	689	420	590	103	160	80	1,353	850	644	1,494	500	200	700
			前年比(%)	98.4	108.2	100.9	94.8	92.3	100.0	91.4	93.6	89.0	98.2	92.4	101.3	86.7	94.3	104.6	83.1	94.1	108.7	104.2	107.4
	年計	実数(千㎡)	13,184	4,907	18,091	2,409	132	104	355	3,000	1,737	2,575	411	661	412	5,796	3,309	2,531	5,840	1,910	825	2,735	
		前年比(%)	103.9	109.6	105.4	94.4	86.3	81.9	92.2	93.1	84.1	100.4	95.9	99.9	98.9	94.4	102.9	86.6	95.1	105.2	101.5	104.1	
令和2年	1-3月	見通し	実数(千㎡)	3,300	1,300	4,600	500	30	20	90	640	400	600	100	170	90	1,360	840	616	1,456	430	200	630
			前年比(%)	97.9	110.1	101.0	73.9	79.4	76.9	105.9	77.5	103.7	97.0	101.0	107.3	78.9	98.9	105.4	90.0	98.3	96.6	101.5	98.1
	4-6月	見通し	実数(千㎡)	3,300	1,320	4,620	600	30	30	90	750	450	680	102	170	110	1,512	850	614	1,464	460	210	670
			前年比(%)	98.0	105.1	100.0	91.6	81.4	83.3	90.7	90.7	99.1	96.8	97.1	100.0	81.5	96.5	103.5	100.0	102.0	96.8	100.0	97.8

九州	- ④ -0029	竹林商事(株)	代表取締役	竹林 隆広
九州	- ③ -0037	㈱九銘協	代表取締役社長	峯 一郎
東京 S	- ③ -0008	㈱キータック	代表取締役	中西 宏一
東関東 S	-0013	丸玉木材㈱茨城工場	取締役工場長	似内 向
東関東 S	-0014	丸玉木材㈱新潟物流センター	取締役工場長	似内 向
東関東 S	-0015	丸玉木材㈱関東物流センター	取締役工場長	似内 向
東関東 S	-0016	丸玉木材㈱南関東物流センター	取締役工場長	似内 向
東関東 S	-0017	丸玉木材㈱新潟物流センター	取締役工場長	似内 向

創業から半世紀の伝統と信頼性と高品質。

「日々新・進」をモットーに、
より良い製品提供に努めています。

昭和22年の創立からおおよそ70有余年にわたり、常に高品質な製品を提供すべく
様々なチャレンジをしてきました。おかげさまで良い評判をいただいています。

「和」と「企業活動を通じて地域社会に貢献する」ことを
経営の軸として守り続けています。

これからもさらにみなさまのお役に立てるように、
業界のリーディングカンパニーとして前進していきます。

人と木を結んで・・・

日新グループ

<http://www.nisshin.gr.jp/>

日新ホールディングス株式会社

株式会社 日新

本社工場 / 境港市西工業団地100
第三工場 / 松江市岡本町1062
第二工場 / 境港市西工業団地70
湖北工場 / 松江市富士見町3-13
四国工場 / 徳島県小松島市横瀬町5-38
三重工場 / 三重県多気郡多気町河辺1343-1

TEL 0859-47-0303
TEL 0852-88-2211
TEL 0859-47-0303
TEL 0652-37-0301
TEL 0885-38-6103
TEL 0598-38-6003

NS木質科学研究所

境港市西工業団地102 TEL 0859-47-0606

日新林業株式会社

本社 / 松江市殿町383
境港事務所 / 境港市西工業団地88
境港工場 / 境港市西工業団地88

TEL 0852-23-3822
TEL 0859-44-3311
TEL 0859-44-3311

湖北ベニヤ株式会社

本社工場 / 松江市富士見町3-13 TEL 0852-37-0301

島根合板株式会社

本社 / 浜田市治和町口895-2 TEL 0855-27-1625
第二工場 / 浜田市岡布町1168-8 TEL 0855-27-1625

島根県合板協同組合


本部 / 松江市殿町383 TEL 0852-23-3822
東京事務所 / 東京都中央区築地4-1-1 (東創ビル17F)
TEL 03-3248-6861

日新バイオマス発電株式会社

本社 / 境港市西工業団地46-1 TEL 0859-21-4591

まちをつくる。
くらしをつくる。
笑顔をつくる。

www.mkenzai.co.jp

 三菱商事建材株式会社

概 要

2019 年 10 月の新設住宅着工戸数は 77,123 戸（前年同月比 7.4%減）で 4 カ月連続の減少となった。その内、木造住宅は 45,717 戸（前年同月比 9.0%減）で 4 カ月連続の減少となった。季節調整済年率換算値は 87.9 万戸で前月比 2.0%減、先月の増加から再びの減少となる。

利用関係別では持家が 24,495 戸（前年同月比 5.6%減）で 3 カ月連続の減少、貸家は 29,417 戸（同比 16.5%減）で 14 カ月の連続の減少、分譲 22,896 戸（同比 7.0%増）で 5 カ月連続の増加となった。分譲の内訳はマンションが 9,998 戸（同比 16.2%増）で 3 カ月連続の増加、戸建ては 12,726 戸（同比 1.4%増）と 5 カ月連続の増加となった。分譲住宅は増加したが、持家及び貸家が減少したため、全体で前年同月比 7.4%の減少となった。

国内・外合板の供給量

10 月の国内合板生産量は 29.6 万 m³（前月比 105.6%、前年同月比 107.4%）と発表された。その内、針葉樹合板の生産量は 28.6 万 m³（同比 106.0%、

合板市況と今後の見通し

日本合板商業組合東京支部
東京都ベニヤ板問屋協同組合
新風会 猪爪 清和

108.6%）となり、出荷量は 29.4 万 m³（同比 107.7%、105.3%）で在庫量は 12.8 万 m³と減少した。出荷量は 13 カ月連続で前年を上回った数字となった。

輸入合板の 10 月度入荷量は 21.5 万 m³（前月比 115.1%、前年同月比 77.9%）となった。国別入荷量はマレーシアが 6.8 万 m³、インドネシアが 8.0 万 m³、中国が 5.0 万 m³となっている。今年累計は前年対比 86.7%の入荷量になっている。

今後の見通し

国内合板は生産・出荷ともに高水準の状態で、29 万 m³台と過去最高の数量となり、低水準で推移している在庫量が更に減少した。トラック不足が強まれば、更に納期遅れが広がるのが懸念される。

輸入合板は弱含みの状態が続いていたが、現地シッパーが多少値上げを唱えていることや、港頭在庫の調整がついており需給バランスが取れていることなど、好転の兆しが見えてきている。

国内・輸入合板で動きは違うが、今後は引き締まった相場展開になると思われる。

NODA

ラスティック フェイス

Rustic Face

Rich J-Base | J-Base 天然木フロア

リッチ・J ベース (1本溝タイプ) | J ベース (2本溝タイプ)



モダンでありながら、
素朴であたたかみのある風合い。
木目の織りなす床の質感。

株式会社ノダ 本社 〒111-8533 東京都台東区浅草橋5-13-6 (三朋ビル) ☎0120-51-4066 (お客様相談室)

住み続ける人のことを、
考えて、考えて、考えて、
誕生した外壁材です。

PREMIUM SERIES
窯業系サイディング
業界初
塗膜の変色・褪色
30年
保証に対応


人も住まいも、長く生きていく時代。
住まいの外壁材にも、
人生に、長く寄り添う役割があると思う。
色あせにもひび割れにも強い進化した外壁材。
それが、ニチハのプレミアムシリーズ。

壁を極め、世界の頂きへ。
ニチハ

ニチハは外壁材のリーディングカンパニーとして、スポーツクライミングを通じて豊かな社会づくりと夢に向かって挑戦し続ける人々を応援しています。

公益財団法人 日本山岳・スポーツクライミング協会のオフィシャルパートナーです。

sojitz 双日建材は、安心、安全な『住まい』づくりの良きパートナーであり続けます。
New way. New value 『住まい』づくりのサポートを通じて、『ひと』に豊かさを提供します。



双日建材株式会社
www.sojitz-bm.com

本 社：東京都千代田区大手町1-7-2 東京サンケイビル21F TEL. 03-6870-7800
営業拠点：大阪・名古屋・札幌・東北(仙台)・新潟・北陸(金沢)・静岡・中国(広島)・四国(高松)
九州(福岡)・那覇・マレーシア・インドネシア

カガクでネガイをカナエル会社

ZEH、HEAT20など、 ますます高まる断熱要求に対応する “高性能断熱材”

カネライトフォーム®の3大特性は、

高性能だから壁の厚みを抑えられます

外張り、充填どちらの断熱工法にも使えます

吸水・吸湿性がほとんどありません

独立した小さな気泡の中に気体を閉じ込めることにより、熱伝導の三要素として知られる「伝導・輻射・対流」を抑制し、熱を効果的に遮断します。



カネライトフォーム®FX
[熱伝導率0.022W/(m・K)]



カネライトフォーム®
スーパーEX
[熱伝導率0.024W/(m・K)]



カネライトフォーム®
スーパーE-III
[熱伝導率0.028W/(m・K)]

カネライトフォーム®は、建材トップランナー制度対象製品(区分名:押出法ポリスチレンフォーム断熱材)です。

製造

株式会社 **カネカ** Foam & Residential
Techs Solutions Vehicle

販売(問い合わせ先)

カネカケンテック株式会社

本社・東日本営業部 〒100-0011 東京都千代田区千代田1-3-3 TEL.03(3596)7011
※「カネライトフォーム」は、株式会社カネカの登録商標です。 西日本営業部 〒541-0045 大阪府中央区道修町4-4-10 TEL.06(6205)3621

お問い合わせは、カネカケンテック株式会社へお願い致します。 カネライトフォーム 検索 パソコン/スマホから検索できます。

林野庁主催「令和元年度第3回木材需給会議」に先立ち
2019 年 12 月 9 日に開催された「合板需給予測検討会」（日本合板工業組合連合会・日本木材輸入協会・日本合板商業組合）で合板需給見通しを検討しました。

国産合板の需要

1. 令和元年第3四半期の実績について 今回（849 千㎡）
(実績数量の背景、前年同期との比較等)
山梨、大分の新工場の稼働・生産は順調であるが、既存工場は働き方改革等への対応から土日の完全停止により生産量は伸びなかった。需要は新工場増分の手当ては順調、既存工場分は消費税駆け込み需要に追われた。新工場による生産増分は 10 万㎡/年間と見込まれ、第3四半期では予測を上回り前年同期比＋9.3%の大幅増になった。
2. 令和元年第4四半期の見込みについて 今回（860 千㎡）
(見込み作成の根拠、前年同期との比較等)
生産では、稼働日数が多く新工場分の上乗せなどからピークとなるが、出荷においてはトラック（運転手）の確保難、駆け込み反動減等はマイナスに働く。しかし、プレカット工場などの旺盛な需要状況からみると、前年同期比＋0.1%の前年と同水準になる見込み。
3. 令和2年第1四半期の見通しについて 今回（830 千㎡）
(見通し作成の根拠)
生産は、冬場の気温から東北地区については乾燥効率の低下などの制約下にある。需要は、駆け込み反動減にあるが年度内着工を目指す需要も見られる。また、非住宅の木造化の進展も見られ針葉樹構造用の部位や用途の拡大が続く見通し。
(前年同期との差異について)
結果、前年同期比＋1.5%と前年水準を上回る見通し。
4. 令和2年第2四半期の見通しについて 今回（820 千㎡）
(見通し作成の根拠)
生産は、新工場増分は前年より 5 万㎡/年間の増加、既存工場は働き方改革対応などから設備の生産合理化投資に取り組む姿勢がみられる。需要は、新設住宅着工で年間 5%程度までの減少の傾向となると思われる。一方、非住宅においては木造化に元請側の技術的な準備不足が見られるとの指摘もあるが、拡大への政策支援もあり今年以上の進展となる見通し。
(前年同期との差異について)
減少要因が少し強めの前年同期比－0.8%の前年水準の見通し。
5. その他注目点等
・非住宅木造化用途における超厚合板のメーカーによる開発取組み。
・令和元年の国産合板比率大幅上昇、供給・需要ともに 57%前後。

合板 短期需給見通し (Unit：1,000㎡)

		供給			需要（出荷）			期末在庫		
		計	国内製造	輸入合板	計	国内製造	輸入合板	合計	国内製造	輸入合板
2019(R1)7-9	前回予測	(1,423)	(830)	(593)	(1,425)	(825)	(600)	(1,108.070)	(160.431)	(947.639)
	実績	1,430.310	840.890	589.420	1,453.000	848.529	604.471	1,087.380	147.792	939.588
10-12	前回予測	(1,523)	(850)	(673)	(1,460)	(810)	(650)	(1,171.070)	(200.431)	(970.639)
	見込み	1,494.000	850.000	644.000	1,490.000	860.000	630.000	1,091.588	138.000	953.588
計		5,841.000	3,309.000	2,531.000	5,864.000	3,352.000	2,512.000			
2020(R2)1-3	前回予測	(1,513.000)	830.000	683.000	(1,410)	780.000	630.000	1,274.070	250.431	1,023.639
	見通し	1,456.000	840.000	616.000	1,460.000	830.000	630.000	1,087.588	148.000	939.588
4-6		1,464.000	850.000	614.000	1,430.000	820.000	610.000	1,121.588	178.000	943.588

輸入合板の需要


1. 令和元年第3四半期の実績について 今回（604 千㎡）
(実績数量の背景、前年同期との比較等)
中国向け輸出の停滞を理由とするベトナムからの梱包用合板の減少、フロアーベースの国産合板もしくは繊維板との複合への転換、薄物合板の二次加工製品であるポリ合板のメラミンボードへの転換、塗装型枠用合板の引合い低調などの背景から近年にない極めて低い水準の四半期の需要であった。
実績は前回予測の 60 万㎡台となり、前年同期比－11.6%で第2四半期に続き一割以上の大幅減少となった。
2. 令和元年第4四半期の見込みについて 今回（630 千㎡）
(見込み作成の根拠、前年同期との比較等)
建材商社等の輸入元においては、消費増税駆け込み需要等による在庫の回転と価格底入れにともない、新規契約の手当が進んできたことから供給増加の見込となっている。需要では、塗装型枠用合板の引合いは低調だが構造用合板の引合いは比較的強く、全体として第3四半期より 4－5%程度の増加の見込となる。しかし、前年同期比は－17.1%と大幅な減少は続く見込みとなる。
3. 令和2年第1四半期の見通しについて 今回（630 千㎡）
(見通し作成の根拠)
令和元年は、南洋材丸太の規制や国内合板や他材料への転換が大きく進んだことにより、輸入合板の国内での供給・需要の比率は大きく低下した。需要における転換の傾向が変わることはないが、減少幅は縮小する見通し。
(前年同期との差異について)
その結果、前年同期比－5.2%の第4四半期水準となる見通し。
4. 令和2年第2四半期の見通しについて 今回（610 千㎡）
(見通し作成の根拠)
船舶の SOx 規制による経費コストの輸入合板価格への反映が本格的に進み、シッパーと輸入元、輸入元と需要家との綱引きが生じる。価格底入れ後の値戻しに加えコストアップ分の受け入れがどの程度進むか厳しい交渉となる見通し。
(前年同期との差異について)
結果、第3四半期より減少し、前年同期比では－0.4%の同程度の水準となる見通し。

2019.10.23

関西支部 講演会

TKP 心斎橋駅前カンファレンスセンターにて 参加 114 名

石本勝範支部長による開催挨拶で始まり、東京大学名誉教授 太田猛彦氏より、世界的な潮流となっているSDGs（持続可能な開発目標）と、最も親和性の高い森林・林業の関係性および日本が目指すべき方向性について、「森林・林業界から見る持続可能な社会と SDGs ～SDGsの意味と森林・林業の関わりについて～」と題して講演いただきました。



講師は、みえ森林・林業アカデミー 学長・FSC ジャパン代表を務める 東京大学名誉教授 太田猛彦氏

東京の合板卸売り価格 (円)		※東京都ベニヤ板問屋協同組合、日本合板商業組合「市況通信」より (注) 1 車単位 (10 トン) 問屋売り価格・90 日手形 (JAS 製品)							
品 目		12 月 4 日	前週比	12 月 11 日	前週比	12 月 18 日	前週比	12 月 25 日	前週比
ラワン JAS F☆☆☆☆	2.3mm T2	600	0	600	0	600	0	600	0
	4.0mm //	730	0	730	0	730	0	730	0
	5.5mm //	890	0	890	0	890	0	890	0
	9.0mm //	1,500	0	1,500	0	1,500	0	1,500	0
	12.0mm //	1,820	0	1,820	0	1,820	0	1,820	0
針葉樹構造用 (ネダノン)	F☆☆☆☆ 12mm C-D	1,130	0	1,130	0	1,130	0	1,130	0
	F☆☆☆☆ 24mm 実付	2,550	0	2,550	0	2,550	0	2,550	0
	F☆☆☆☆ 28mm 実付	2,850	0	2,850	0	2,850	0	2,850	0
	F☆☆☆☆ 9mm 3×10	1,970	0	1,970	0	1,970	0	1,970	0
輸入・型枠用	12mm JAS 製品	1,350	0	1,350	0	1,350	0	1,350	0
輸入・構造用	F☆☆☆☆12mm JAS 製品	1,390	0	1,390	0	1,390	0	1,390	0

暮らしと地球を
考える。



JKホールディングスグループが扱う「木質系建築資材」。これらは再生産が可能で循環型社会の実現には不可欠な森林資源からつくられています。木の性質である呼吸は、炭素を貯蔵し、大気中の二酸化炭素量のバランスを保つ役割を持っています。私たちは、木が地球環境を支える重要な存在であることを理解し、適切に管理された森林資源が人の暮らしと地球環境の未来を支えていくと考え、その保全に貢献し、快適で豊かな住環境を創造します。



JKホールディングス株式会社

東京都江東区新木場1-7-22 TEL.03-5534-3800 <https://www.jkhd.co.jp>